

【 重要課題：子どもたち 】

道 徳 科 学 習 指 導 案

主題名「じぶんの ことを しっかりと」〔学指要領：A（5）希望と勇気、努力と強い意志〕

令和〇年〇月〇日（〇） 第〇校時 1年〇組教室

人権教育としての授業研究の視点

主人公が自発的に決意を表明した場面で、自分の仕事をしっかりと行う大切さについて子供の本音を引き出すために、教師との役割演技や友達との話し合いを通して考えたことは、目標に向かって強い意志で努力しようとする実践意欲と態度を育てることに有効であったか。

I 主題設定の理由

1 価値観

児童が一人の人間として自立し、よりよい生活を送るためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲が大切である。そのためには、目標に向かって希望をもち、成長しようとする向上心と、自ら行おうとする努力が求められる。

小学校低学年においては、まずは、自分の仕事にはどんなことがあるか自覚をし、自ら行うことができるようにすることが重要である。自分の仕事に対して、家族や教師の賞賛や励ましを基に最後までできた時には、努力できた自分自身に気付かせたい。そして、自分のやるべきことをしっかりと行ったときに感じられるさまざまな喜びや充実感を味わえるようにすることがとても大切である。

2 児童観

削除

3 教材観 教材名「おふろそうじ」（出典：どうとく1 きみがいちばんひかるとき 光村図書）

あきは家でお風呂掃除をしており、家の人のみんなにその仕事ぶりを褒められている。姉に、冬の寒さでお風呂掃除が続けられるかを心配されるが、あきはそれでもお風呂掃除をすると宣言する。母に「あきらならできるよ。」と励まされあきはさらに決意を強くしたというあらすじである。

本教材は、主人公であるあきが自分の仕事であるお風呂掃除を続けている姿や、それを温かく受け止める家族の姿を通して、お風呂掃除を自分のやるべき仕事としてしっかりと行おうとする意欲や行動に繋がっていることを感じられる教材である。

主人公が「ぼく、やるもん」と自発的な決意を表明した場面で、自分の仕事をしっかりと行う大切さについて考えることで、自分の大事な仕事であると自覚し、自ら行おうとする意欲や予測可能な困難にひるまず、自発的にやり遂げようとする前向きな気持ちに気付くことのできる適切な教材となっている。

4 人権教育とのかかわり

群馬県では、令和6年度から第4期群馬県教育振興基本計画で、自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会に向けて一ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びを作り、行動し続ける自立した学習者の育成を最上位目標に掲げている。小学校低学年の児童においては、発達段階的にも興味・関心のあることについては意欲的に取り組むものの、好き嫌いで物事を判断し、つらいことや苦しいことがあるとくじけてしまう傾向がみられる。

子供たちが自分のすべき事を自覚し、しっかりと行っていくことは、自分のよさや大切さに気づき、互いに支え合おうとする態度を身に付ける上でとても重要である。

そこで、本授業では、主人公の自発的な決意を表明した場面で、仕事をしっかりと行う大切さについて考える事を通して、自分自身の「できた」に気付いたり、周りの人の「役にたった」という支え合う大切さについて気付いたりできる機会としたい。

II 本時の学習

1 **ねらい** 「ぼく、やるもん」と自発的な決意を表明したあきらの姿から、仕事を自ら行う大切さを考えることを通して、頑張った先にあるさまざまな喜びや充実感に気付き、途中で投げ出さずに頑張ろうとする実践意欲と態度を育てる。

2 人権教育の視点【育てたい能力・態度】

○感性 自分のやるべき事にはどんな事があるかに気付き、しっかり行おうとする。

○実践力 生活の中の問題点に気付き、自分の役割の大切さを自覚して、生活を向上させようとする。

3 展開

【★ICT 活用に関する事項】

主な学習活動 主な発問 (◎中心発問 ◇補助発問) 予想される児童(生徒)の意識〔S〕	○指導上の留意点
1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(5分) ○ 事前にとったアンケート結果を知る。 S : みんないろいろなしごとをしているな。 S : やらなきゃいけないとわかっていても忘れてしまうことがあるよ。 <めあて> どうしてじぶんのしごとをするんだろう。	○「自分の仕事」について、事前にアンケートを取り、本時の道徳的価値について自分自身を振り返り、価値に対する意識を高める。 【★提示】 ○事前アンケートの結果を提示することで問題意識を共有し、本時のめあてを立てる。
2 教科書の教材文の範読を聞く。(5分) 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(20分) ◎どうしてあきらくんはおふろそうじをがんばっているのだろう。 S : じぶんのしごとだから。 S : ほめてもらえるから。 ◇あきらくんがしごとをやめてしまったら、どうなってしまうだろう。 S : かぞくみんながきもちよくすごせないよ。 S : あきらくんは努力できる子にならないよ。 S : じぶんできめたことはさいごまでやったほうがいいと思う。 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについて考える。(5分) S : じぶんの力になるから。 S : しっかりやると自分が進化するから。 S : かぞくやともだちがよろこんでくれるから。	○決意した時のあきらの姿から、自分の仕事をがんばることについて考えることができるように挿絵やセリフを板書する。 ○あきらくんががんばる理由をペアで話し合うことで、自分の仕事を自ら頑張ることについてより深く考えられるようにする。 ○多面的・多角的に考えられるように、ペアの考えを全体で共有する。 ○自分の仕事を続けることができない場面を想定することで、弱い気持ちに負けずに自分の役割を果たすためにどうしたらよいかを考えることができるようにする。 ○予想される困難に対して、自分のしごとに取り組むための気持ちを確かなものにするために役割演技をする。 ○自分の仕事は自分にとって大切なことであり、自分自身を高めたり、よりよい生活を送ることにつながったりするなど、道徳的価値に迫る児童の考えを意図的に指名して紹介することで、自分の仕事を頑張ることの良さを考えるように促す。
5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。(10分) ○今日の学習を通して、考えたことを書きましょう。 <振り返り> S : よわいきもちにまけないで、きめたことはさいごまでできるようになりたい。 S : かぞくやともだちがよろこんでくれるとうれしいから、じぶんのしごとをわすれずにやりたい。	○本時の学習を通して、自分自身について考え、ワークシートに記入する。 ○考えを具体的に書いている児童を、意図的に指名をする。

◆評価の視点

対話・交流の様子から、「じぶんのしごとをしっかりとやる大切さについて、多面的・多角的に考えている」姿を見取る。

対話・交流の様子から、「じぶんのしごとをしっかりとやる大切さについて、自分自身との関わりの中で考えている。」姿を見取る。